



仙台塩釜港復興だより 第5号

— 港湾は人の心も結んでいます —

宮城県仙台塩釜港湾事務所

ふ頭の本格復旧工事が進行中

仙台港区で多種多様な貨物を取り扱う中野1号～4号ふ頭岸壁の本格復旧工事が国により着手され、本格的に行われております。

コンテナ船専用の高砂2号ふ頭以外の公共ふ頭は県による応急的な仮復旧の結果、船舶の接岸や荷役作業が可能な状態になりましたが、ふ頭に段差が残るなど不完全な状態が残っています。

中野1号～4号ふ頭の本格的な復旧工事は船舶の発着や荷役作業と並行しての実施となります。また、他のふ頭についても順次本格的な復旧工事が行われていく予定です。

なお、喫水深についても来年1月中に国の浚渫工事により解消されることになっていきます。

工事が終了するまでの間、港湾利用者の皆様にはいろいろご不便をおかけすることになりますが、ご理解及びご協力をお願いします。

●中野4号ふ頭
本格復旧工事



ガントリークレーン1号・4号機が復旧!

コンテナをコンテナ船に積み降ろしするときに使う「ガントリークレーン」は、震災により4基全てが被災しました。平成23年9月5日にまず2号機が使えるようになりましたが、12月7日に1号機も復旧し、4号機も12月16日には復旧予定で、コンテナ処理能力がさらに向上します。また、最後の3号機は来年3月末に復旧の予定です。

ガントリークレーンだけでなく、大型コンテナ船が発着できる高砂2号ふ頭の本格復旧工事も進めており、12月中には供用を再開する見込みです。高砂2号ふ頭が復旧することでやっと仙台塩釜港の全ての岸壁で貨物船が入港できるようになります。

施設の復旧とともに、北米定期航路の復活が期待されます。

● 復旧したガントリークレーン1号機



仙台塩釜港・松島港の災害査定が終了

前回の第4号でもお知らせしていましたが、現在、港湾施設の本格復旧に向けて、国が復旧事業に対して負担すべき費用を査定する災害査定も精力的に実施されておりましたが、12月9日をもって終了し年明けから順次災害復旧工事を着工する予定です。

●塩釜港区での
災害査定の様子



カナダから大臣などが視察に来ました

11月12日、カナダ産製材が震災後初めて仙台塩釜港に直接入港する時期に合わせて、カナダ連邦政府天然資源省オリヴァー大臣やブリティッシュ・コロンビア州政府天然資源省トムソン大臣、駐日カナダ大使館フリード大使、カナダ製材企業関係者などが視察に訪れました。

仙台塩釜港の復旧や入港船舶の回復状況、コンテナ船の動向などをカナダ側に説明したほか、カナダから直接入港した製材運搬船「マダム・バタフライ」号や製材の荷揚作業の見学が行われました。意見交換の際は活発な質問が続いたため予定時間を大幅に超過し、相互に貴重な情報交換の場になりました。



●カナダ産製材の前で記念撮影

国内外の要人との情報交換を通して、これから仙台塩釜港に寄港する船舶数や取扱貨物量が回復、そして成長していくことが大いに期待されます。



● 視察の様子



● 歓迎の挨拶



線路は続くよ、もう1度

JR東北本線陸前山王駅と仙台塩釜港仙台港区を結び、仙台塩釜港から石油製品やビール、レールの運搬に大きな役割を果たしてきた仙台臨海鉄道の復旧作業が進められてきましたが、11月25日に仙台西港駅から仙台港駅を經由して陸前山王駅までの6.7kmが運行を再開し、キリンビール仙台工場の製造品輸送が始まりました。

レール輸送に使われる仙台埠頭駅から仙台港駅までの1.6kmは来年3月の再開予定に向けて復旧作業が進められ、石油製品の輸送に使われる仙台北港駅から仙台港駅までの1.2kmは立地企業の再稼働に合わせて復旧作業が進められます。

● 試運転の様子(仙台臨海鉄道関係写真は全て仙台臨海鉄道株式会社提供)



仙台臨海鉄道の機関車は、3両とも水没し、1両は社員が修理し、2両のうち1両は秋田臨海鉄道から借り受け、もう1両は京葉臨海鉄道から購入し、来年2月には震災前の3両体制に戻ります。いよいよ、仙台塩釜港から全国へ、線路がもう1度つながりました。



被災直後

同じ箇所
の復旧後



左側は被災直後
右側は復旧後



仙台国際貿易港体験・ 視察セミナーを実施しました

10月25日に、卸町会館及び仙台塩釜港で『平成23年度 仙台国際貿易港体験・視察セミナー』（主催：仙台国際貿易港整備利用促進協議会、仙台商工会議所、仙台市及び宮城県）が開催されました。

セミナーでは仙台塩釜港の利用を検討している方々に参考とするため、実際に自動車専用船や太平洋フェリー、コンテナターミナルの視察を行いました。コンテナターミナルでは、ストラドルキャリアやガントリークレーンによる船舶への積み下ろしや、港内で大型船の操船の援助を行うタグボートによる後・横方向移動などのデモンストレーションの見学や、仙台塩釜港の概要・復旧状況についての説明がありました。



● 自動車専用船の見学
(自動車は仙台塩釜港の主要貨物の1つです)



● タグボート実演の様子



● コンテナ積み込みの見学



● コンテナ荷役機械の実演



● コンテナターミナル説明の様子

安全・安心なみなとへ向けて

下の写真は、津波で岸壁に打ち上げられていた貨物船「グロービス・マーキュリー」号の撤去作業の様子です。船体の半分が既に撤去されています。撤去完了まで、もう少しお待ちください。



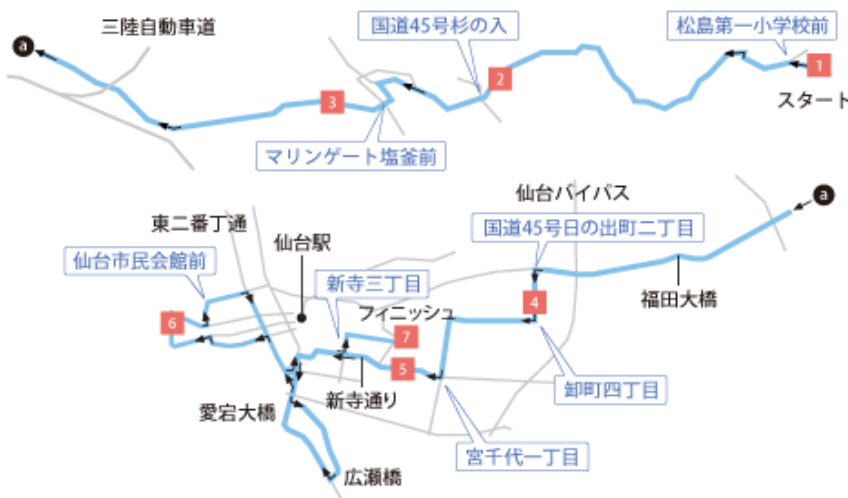
女子駅伝のトップランナーが 仙台塩釜港も駆け抜けます！

12月18日（日）、「第31回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会」が開催されます。

実業団女子の日本一決定戦であり、今年から宮城県で開催されることになりました。松島から仙台までの間、第1中継所と第2中継所の間は仙台塩釜港を通る42.195kmのコースです。各チームの選手がたすきをつなぎゴールを目指します。

震災から着実に復興の歩みを進める中で本大会は復興祈念大会として開催されます。選手の勇姿は、多くの人々に勇気と元気を与え、復興への大きな活力になるでしょう。

大会当日は、コース周辺で交通規制が行われます。交通規制に伴い、皆様にご不便をおかけすることになりますが、ご理解とご協力をお願いします。



● 第31回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会のコース

キリンビール仙台工場 出荷再開

11月2日、震災で甚大な被害を受けたキリンビール仙台工場からの製品出荷が始まりました。9月下旬に岩手県遠野市産ホップを使った「一番搾り とれたてホップ生ビール」の仕込みを開始しました。この日はキリンビール松沢社長、横田工場長、奥山仙台市長、そして村井宮城県知事も出席した初出荷式も盛大に行われ、地域の期待が集まる大きな1歩になりました。

翌3日は工場見学ツアーとレストラン営業も再開されました。生産ラインの復旧作業は現在も進行中で、製造と出荷の体制が震災前の水準まで戻るのは来年3月の見込みです。

工場の復旧は地域経済再生に向けた大きな前進です。製造業も頑張っています。



● 初出荷のトラックを見送る工場従業員
(写真はキリンビール株式会社提供)

編集事務局

宮城県仙台塩釜港湾事務所

〒983-0001

仙台市宮城野区港三丁目1-3

アクセル5階

TEL:022-254-3132(港政班直通)

FAX:022-254-3136

E-mail: sdsgkowns@pref.miyagi.jp

通過場所と予想通過時刻

1	スタート(12:10) 松島町中央公民館前
2	第1中継所(7.0km / 12:32) 塩釜市地域活動支援センター前
3	第2中継所(10.9km / 12:44) 塩釜市水道部前
4	第3中継所(21.8km / 13:20) 三和シャッター工業・富士化学工業前
5	第4中継所(25.4km / 13:32) 聖和学園高等学校前
6	第5中継所(35.4km / 14:03) 仙台第二高等学校前
7	フィニッシュ(42.195km / 14:24) 仙台市陸上競技場